

館長コラム(29) 沖縄から生のマンゴウが届くと思うこと

50年近く前に沖縄でグッバやパパイヤなどの果物やゴーヤーやヘチマなどの野菜を初めて食べてその美味しさに感動しました。しかしマンゴウ(=植物名。マンゴー)は食べた覚えがありません。あんまり栽培されてなかったからです。それには理由がありました。グッバ(沖縄方言ではバンシルー)やパパイヤ(八重山方言ではマンジュマイ)はそれほど手間をかけなくても美味しい実がなりますが、マンゴウは手間をかけないと商品にはなりません。手間がかかる果物は高価になるので果物として一般化していませんでした。

話は変わりますが、当時、沖縄からのお土産の定番は「ちんすこう」と「洋酒」でした。私はパパイヤなど果物を土産にしたいと思いましたが、生の果物や野菜を本土に持ち込むことは植物防疫法で禁じられていました。理由はミカンコミバエやウリミバエが沖縄にはいるが本土にはいないからです。本来はこれら2種のミバエ(実蠅)は沖縄にもいなかったのですが、ミカンコミバエは1919年に沖縄本島で、ウリミバエも1919年に石垣島で発生が確認されました。以後ミバエはウリ科植物の果実や果樹の果実に産卵し、主に幼虫が果実を食害して大きな被害をもたらしていました。そして復帰後すぐにこれら2種類のミバエの根絶事業が開始されました。ミカンコミバエもウリミバエも雄の繁殖能力を削ぐという方法を用いて根絶しました。ミカンコミバエでは雄を強力に誘引する物質(メチルオイゲノール)と殺虫剤を混ぜたものを利用して雄を皆殺しにする方法で根絶しました。ウリミバエでは雄のよい誘引剤がなかったため、繁殖力のない雄を大量に放出し野生雌と交尾させて孵化しない卵を産ませることで根絶しました。

そのために、ウリミバエを大量に増殖し、蛹の時期に放射線を照射して不妊化した雄の蛹を屋外にばらまくという方法でした。この事業開始時に責任者だったのが第17回南方熊楠賞を受けた伊藤嘉昭先生でした。伊藤先生が名古屋大学に異動した後小山重郎先生が責任者として秋田県農試から赴任され、私は小山先生から昆虫生態学の講義を受けました。この根絶事業の詳細は、宮竹貴久著「特殊害虫から日本を救え」(集英社新書)を読んでみて下さい。多くの方々の努力の結果、1986年にミカンコミバエの根絶宣言、1993年にウリミバエの根絶宣言が出されて熱帯果実を生のまま本土に輸送できるようになりました。その結果、高価な果物であるマンゴウの贈答品としての需要が高まり栽培農家が増えました。そして私の家にも届くようになったのです。生マンゴウが届くと首里にあった沖縄県農業試験場(=現在は沖縄県農業研究センターへと改称)とミバエ増殖施設、そしてそこで働いた方々の苦勞を思い出します。

和歌山県でもクビアカツヤカミキリ(特定外来生物指定)の被害が問題となっています。まずは特定外来生物に関心を持つことが重要だと思います。

※本コラムでは一部果物や野菜を植物名で表記しています。



長野公民館だより

館長 米本 憲市 主事 山本 遼

事務所: 田辺市中三極805番地 三極コミュニティセンター内

TEL: (0739)34-0022

FAX: (0739)33-0836



長野小学校 夏の校内整備作業

長野小学校学社融合推進協議会と同校育友会は8月17日(土)朝7時より、本年度の事業計画の一つである夏の校内整備作業を共催で実施しました。

作業には同推進協議会の構成団体である育友会や町内会、公民館、学校教職員のほか、現在児童のいない地区からお手伝いに来てくださった方もおり、合計で約30名の参加となりました。学校周辺の除草作業と校舎の窓拭きを行っていただきました。約1時間ほどの作業で生垣の伸びた枝や雑草も綺麗に刈りとられ、校舎とその周辺をとっても美しく仕上げてくださいました。

次回の校内整備は運動会(9月28日(土)開催)を控えた、9月13日(金)朝7時から30分ほどの作業を実施予定です。

ご協力いただきました皆さん、朝から暑い中ご協力いただいたこと、紙面をお借りして心よりお礼申し上げます。



夏場は暑い日が続いています。整備作業当日も裏面掲載のソフトボール大会の日も物凄い晴天で空調服が欠かせませんでした。熱中症にはくれぐれもお気をつけください。

主な掲載内容 ページ

・長野小学校 夏の校内整備作業	1
・盆ソフトボール大会の結果について	2
・モルック大会の結果について	3
・館長コラム(29) 沖縄から生のマンゴウが届くと思うこと	4

移動図書9月の予定

- ①9月6日(金)
9時45分~10時25分
長野小学校
- ②9月20日(金)
9時30分~10時10分
長野東原

長野館区人口統計

人口:	593	人
前月比:	-2	人
世帯数:	316	世帯
前月比:	-1	世帯

長尾が優勝！ 盆ソフトボール大会

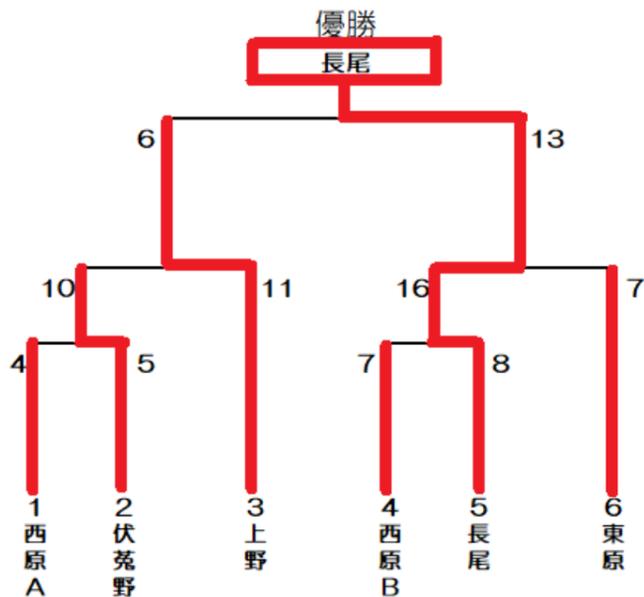
8月14日(水)、平成30年度以来開催を延期し続けていた盆ソフトボール大会を開催することができました。

朝から晴天となった当日は、早朝から熱戦が繰り広げられました。

初戦の西原Aチーム対伏菟野チームが始まると、打者への応援や拍手が響く中、盛り上がりを見せながら試合が進んでいきました。決勝では上野チームに13得点した長尾チームが優勝を決めました。長尾チームの皆さま、おめでとうございます。過去の記録では29年度、30年度に上野チームが2連覇しており、6年越しのリベンジとなったかたちです。

久々の開催となった盆ソフトボール大会ですが、参加した全ての方に楽しんでいただき、地域で盛り上がることに喜びを感じていただけていたら何よりです。

選手として参加された各地区の皆さま、応援に来られた皆さま、試合後半になるにつれて日差しが強まり、暑さが過酷になるなか審判を務めていただいた体育委員さんを始めとする皆さま、ありがとうございました。



運動場の対角線上のフェンスを越えるような長打を放つ方もおり、快音が響きます。(写真右上)
入賞チームに景品を渡す主事の様子を米本館長が撮影してくれました。おめでとうございます！

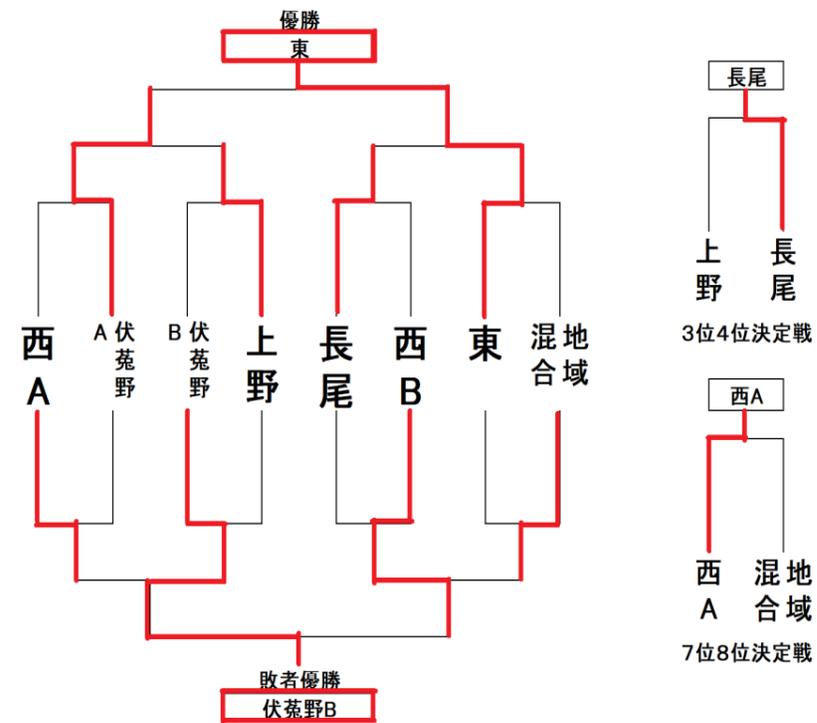


東チームが優勝！ モルック大会

8月25日(日)午後、清瀧にてモルック大会を開催しました。30名近くの参加者が集まり、室内が歓声でいっぱいになるほどの賑やかで楽しい大会となりました。

モルック大会を来年以降も継続して開催するかは現段階では決まっていますが、年齢を問わずにとっても盛り上がるニュースポーツですし、人が大勢集まる機会にもなるため、来年以降も続けていきたいですね。

参加いただいた皆さま、準備を進めていただいた体育委員の皆さま、ありがとうございました。



余談ですが、同日25日には北海道函館市にてモルックの世界大会決勝戦が行われていました。16か国から約3,300人、総計672チームからなる予選に勝ち残った192チームがトーナメント戦を行い、日本の兵庫県チームが優勝となりました。世界大会で日本が優勝を収めたのは初とのこと。

優勝したチームの選手が笑顔なのは当たり前ですが、トーナメントで敗退したチームの選手がインタビューで「負けて悔しいけど楽しかった。」と答えていたのがニュースポーツの良さを表しているようでした。楽しいですよ、モルック！